〈資料〉

1、加藤孫三郎事績（「加藤善衛門家譜覚書」常陸太田市加藤寛氏所蔵）

年代	加藤孫三郎事績
明和九年　十月二十九日	加藤泰之の長男として出生、名は孫三郎泰来。
享和二年十二月　十九日	格式馬廻列、郡奉行見習いとなる。
文化二年　四月　十四日	格式書院番上座、郡奉行となる（石神陣屋勤務八年）。
文化三年　六月二十四日	郡奉行本職の格となる。
文化七年　一月　十三日	奉公懈怠なく勤め、褒美として白銀白銀一〇枚を賜わる。
文化九年　四月二十四日	大病につき役を免ぜられ、中の寄合組となる。
文化十年　七月　十五日	病死、年四二歳。

2、加藤孫三郎墓碑文（水戸市酒門共有墓地内加藤孫三郎墓）

〈墓碑正面〉

孫三郎君加藤氏墓

〈墓碑左面〉

孫三郎君墓碑銘并序　友人　小宮山昌秀撰文

吾友子健之没也、二児尚幼其父久軒君、幸健養、撫其孤有上年于此児、既長久軒君請老休、伝家於長孫泰健、公命襲禄、任職見、為進物番、頃来曰、先人墳上之碑、翠軒立原先生已題数字碑陰之、記未果而没頭、煩子芼余於子健与学仝職、又友其心、雖不文鳥能辞焉、乃勒其梗概曰、君諱泰来字子健称孫三郎、水戸世臣也、久軒君名泰之、初称善衛門、娶諸岡氏、生二男二女、君其長子也、為人襟裏爽然、無有蕭芬而謹広愛人、虚

〈墓碑裏面〉

已納、善勤学不喜詞章、常好読貝原損（ママ）軒愼思録、善其実行展践有得、于此云其於武芸撃剣弄鎗、皆窮妙、従受鎗法者頗多、兵曩（嚢カ）者文公励精為政治民、尤艱其人調、君試郡奉行尋為其管石神時、久軒君為勘定奉行、父子並冗要職、前無其比、世称其盛、而　文公即世　武公代立載、徳不衰、首召君輩問民瘼、君対応称旨石神所管八十有五邨、其俗健訟難治、君抵郡聴決盡其心、遂至寡訟、公賜白金賞之、旨君抱羸疾勉強理事、而疾日加、君不得已請免、公命為中嵜合、猶賜其秩、養痾終不愈、以文化十年癸酉七月

十五日没、享年四十有

〈墓碑右面〉

二、嗚呼惜哉、天何奪之速、君少予八歳、誼如兄弟、嘗約逓相規誨、至今其言猶在臨文、不覇涙下焉、坂戸之原所蔵、其形一斤之石、所表其墳也、泰健襲称孫三郎、次子福松未冠、並正室森本氏所生也、銘曰

稟命不融、功績叵期、繁華将茂、秋霜悴之、

生必有死、已矣何悲、欝焉其壟、維君所止

父葬子祀、君其安此、

文政六年癸未十月建　　槍法弟子立原任敬書

3、石神郡奉行加藤孫三郎の村々への触書（「文化三年村松西方村照沼村兼帯庄屋御用留」東海村照沼信邦氏所蔵）

以書附申触候

一、其村々御収納金穀指銭等請取書付村役人共より不指出候村方も有之、甚不心得之至ニ候、畢竟右等之儀有之故、小人共疑心ニ存懸リ合等事起候儀も有之、詰ル所ハ村方之傷ニ相成以之外不宜候、仍而此疫（度）より諸指銭救方厳敷申付候条、右之通相心得壱ヶ村切ニ通帳ニ相認、右帳面之内江一廉切ニ御収納金穀諸指銭之口諸いたし、見通宜様拵相渡置、少も無相違様可致候

右之通申付候上ハ、春秋順村之節通帳引上見届之儀も可有之、而是又相心へ（得）通帳紛失無之様小人共へも屹卜可申付候

一、当年より諸指銭都而壱ヶ村切ニ通帳ニいたし候へ共、壱人切ニ相渡置御年具（貢）夫金雑石縄藁代都而諸指銭ニ至候迄、壱ヶ年出辻之分無漏諸請取候度毎通帳へ相記、組頭請取印形判ニ而相渡置可申候、追而指銭改之節割判無之候得者証拠ニ不相成、村役人共弁ニ申付候条、此上屹卜可相心へ事

一、諸指銭役所より割致触出候外、村方ニ而余町之入用辻ハ其度毎ニ立合候支配割判之証拠書付申請置指銭改候節、帳一同指出改請可申候

一、諸御普請人足御扶持米被下候分村相場を以代金等いたし、年々割返ニ行ひ候村方多有之候所、勘定合不呑込候小人共ハ庄屋懐へ落入候様抔と疑心も有之様ニ相聞候条、以来ハ御普請ニ右人足共へ直渡為致候間、此旨相心得小人共へも可相違候

一、村々依而是迄小人共印形役元へ引上置諸帳面等、村役人共自己ニ相極候村方も有之趣ニ相聞、小人共より疑心ヲ請甚不宜印形之義

ハ大切成物有之間、右等之義ハ以来相止印形引上置候村方も有之候ハヽ、早速相返已後印形相極候、時々小人共召呼書面為見届印形為致候様取扱可申候

右之趣相心得小人共へも無漏様銘々早速通帳相渡置取扱不申候、且当年指銭改よりハ小人共へ相渡置候通帳壱人切ニ指銭帳引合見届け請候様可致候、猶亦委細之義ハ掛リ支配へも相達候条、不呑込候儀も有之候ハヽ、懸リへ申出候様（可致候様）可致候、近之頃村方ニ仍而村指銭之祢何指銭不相分無銘之指銭抔指出し村方も有之而申候、相聞以来右等之儀仕出候歟、下ケ致候趣於相聞而屹ト申付振有之候間、此上相心得得可申候

一、仙台通宝之儀諸上納之鐚へ交有之処、先達触シ候通右銭通司之儀厳重御吟味有之、付而ハ都而村々より相納候儀、得与遂吟味交無之様可仕候、夫ニ付候而ハ壱貫以上之鐚相納候節ハ、木亦ハ竹札へ村名書付納銭へ緒付指出可申候、万一右之内より仙台通宝せん（銭）出候ハヽ、村役人共へ弁ニ申付候条其旨兼相心へ無達候

右之趣見届け候ハヽ、村下へ庄屋致印形早々順達、とまり村より追而御役所可返候、以上

十月晦日　　加藤孫三郎

4、人口の変化（『水戸市史』中巻（一）水戸市、南和男『幕末江戸社会の研究』吉川弘文館、関山直太郎『近世日本の人口構造』吉川弘文館）

年次	水戸藩(人)	指標	年次	関東(人)	指標	年次	全国(人)	指標
享保五	三〇七〇六四	一〇〇・〇〇	享保六	五一二三七〇四	一〇〇・〇〇	享保六	二六〇六五四二五	一〇〇・〇〇
延享四	二七五八二〇	八九・八二	寛延三	五〇四七三五六	九八・五三	寛延三	二五九一七八三〇	九九・四三
宝暦六	二七三四九三	八九・〇七	宝暦六	四九七四九一〇	九七・九五	宝暦六	二六〇七〇七一二	一〇〇・〇二
天明六	二三〇七五八	七五・一五	天明六	四三七五七三六	八五・四〇	天明六	二五〇八六四六六	九六・二四
寛政十	二二九一八五	七四・六四	寛政十	四三五〇三六六	八四・九六	寛政十	二五四七一〇三三	九七・七二
文化一	二二三六三五	七二・八三	文化一	四二九五六八四	八三・八四	文化一	二五六二一九五七	九八・三〇
文政十一	二二七四〇三	七四・〇三	文政十一	四三四三八七二	八四・七四	文政十一	二七二〇一四〇〇	一〇四・三六
天保五	二四四九〇八	七九・一二	天保五	四一七一三八八	八一・四一	天保五	二七〇六三九〇七	一〇三・八三
元治一	二四四九〇八	七九・七六	天保十一	四二九七七〇六	八三・八八	天保十一	二五九一八四一二	九九・四四
明治五	二八一二三九	九一・五九	弘化三	四四三八四七八	八六・六三	弘化三	二六九〇七六二五	一〇三・二三
			明治五	五一七三九五九	一〇〇・九八	明治五	三三一一〇八二五	一二七・〇三

5、水戸藩農地の荒廃（寛政五年九月、『国用秘録』下、71頁）

荒廃時期と荒地・川欠の現状	荒地高	田畑内訳	田畑比
享保の頃（一七一六～三五年）より荒れて大木茂り、開発不可能	（石斗升合）四〇七五一・〇九六	六二三六・六六六 三四五一四・四三〇	一五・三％ 八四・七
三、四〇年以前（一七五三～六三年）より荒れて作り、開発可能	（石斗升合）九六九六・〇四六	二七六八・一五一 六九二七・八九五	二八・五 七一・五
小計	（石斗升合）五〇四四七・一四二	九〇〇四・八一七 四一四四二・三二五	一七・九 八二・一
正徳年中（一七一一～一五）より川欠になり、土地なし	（石斗升合）九一五四・九五二	三五七三・〇八七 五五八一・八六五	三九・〇 六一・〇
合計	（石斗升合）五九六〇二・〇九四	一二五七七・九〇四 四七〇二四・一九〇	二一・一 七八・九

6、水戸藩特産物出荷額（寛政二年分、『国用秘録』下、茨城県、150～152頁）

産物	金額	産物	金額
大小豆小麦	四五三四両一分四七〇文	鹿皮	七一両一分三三一文
穀物	五六八三両	板貫木羽付木割木	五三五九両三四九文
絞油	二三四三両	房鍬	四一八両
粕干鰯五十集鰹節油粕	五一五八両二分三六四文	切粉煙草	四五四〇両一分
茶	二一〇九両一分六四四文	蒟蒻玉	一四三六両二分
煙草	一六六一五両一分二二九文	艾葉	二八両一分
紅花	二七〇一両二分二五文	耳附子	八両一分
薬種	九七両一分四〇〇文	松茸	一七両二分
地藍	二二四両	煙草筵	五八両
玉子	二五七両六七八文	槙	一四一二両
下駄	三五六両二分	酒	一六二五両

7、水戸藩特産物出荷額（文化四年年分、『御用留書抜』茨城県立図書館所蔵）

産物	金額
生塩魚	四〇九三両二分五三七文
塩	二五両二分
煙草入并地紙	四二四九両六一五文
諸紙	二七二八一両
木綿	六二七両二分五〇〇文
繰綿	五四五九両
白楮	一〇二八六両二朱
茶	二〇一九両
紅花	五六二六両
種からし	四八八一両
野菜	三一七両一分六二一貫文
紙	二二六五四両一分
萱薪	一四七三両二朱四四〇貫文
煙草	二六五七五両二分二朱六〇貫文
附木耳柿渋	一〇三両一分六五貫文余
松茸椎茸猪茸	一六一両三分
炭	八四七両一分二朱
蒟蒻玉并氷蒟蒻	一七二八両三分二朱三〇貫文
絞油	三七一両
醤油	一八一七両
粉糖	一三両
海苔	五八両
荒物	三七六両
小間物	〇両
合計	九九〇七一両一分一四二文
菜種	一三六両
縄藁菰苹筵叺蓑座草鞋	九六五両三分八一七貫文
漁高	一二七四六両二分一三二七貫文
海草	六二両
綿木綿	一一六〇両三七八貫文
玉葛蕨葛蕨縄	一三九両
藍葉	五二両一分
箕さる籠類	八一分二両一三六貫文
塩	一〇五両
合計	九二四九二両三八七四貫文
年貢出辻	四二三四一両二分
指引	五〇一五〇両二分三八七四貫文
右之〆百姓益分	五〇七二〇両余

8、水戸藩の農政論（『水戸市史』中巻（二）、282、283、558～561頁、瀬谷義彦「大内玉江の農政論」『日立史苑』5）

農政論	年代	著者	概要
芻蕘談	安永二年	長久保赤水	百姓奢侈、農家減少、農民の生活難
農民疾苦	同　八年	右同	年貢免決定が不合理、借金による困窮
皆川教純意見書	寛政元年	皆川弥六	人口減、土地荒廃、富民より御用金を上納させる
芻蕘録	同　二年	高野昌碩	毛見（検見）の不公正、重税、定免制を採用する
足民論	同　十年	木村謙次	民政や学者・執政への批判
国制摘要	同　十年頃	大内玉江	水戸藩の農政・財政の推移を説明し批判
勧農或問	同十一年	藤田幽谷	人口減、散田棄作り、農民の奢侈、豪農の兼併
富強六略	同十一年	高野昌碩	商人遊民論、郡役所の在地設置
籠田の水	同十二年	右同	財政改革を建議、農村より商人重視を批判
鶴見九皐遺策	同年中	鶴見九皐	政治の不正で百姓が迷惑、諸士を地方に土着させる
勧農或問批評	文政末	大内玉江	幽谷の説は民間の実情に合わず空論

9、在地郡奉行制の変遷（享和二～文化六年、仲田昭一「水戸藩郡制の変遷と郡奉行」『茨城県歴史館報』17）

郡名（所在）	享和二	享和三	文化一	文化二	文化三	文化五	文化六
安良川組（安良川）	小原忠次郎（廃止）→松岡領						
大子組（大子）	増子幸八郎						
小菅組（小菅）	岡野庄五郎						
大里組（大里）	入江忠八郎						
八田組（八田）	高野文助（白石又右衛門）→白石又衛門						
鷲子組（鷲子）	小山田郡平（菅川弥六）→皆川弥六						
石神組（石神）	岡山次郎兵衛→加藤孫三郎						
増井組（増井）	石川儀兵衛						
紅葉組（紅葉）	小宮山楓軒						
浜田組（水戸）	太田長兵衛→伊藤造酒衛門→藤田次郎左衛門						
常葉組（水戸）	長尾左大夫→小原忠次郎						

10、石神郡奉行所の職員（文化六年、「文化六年石神組御用留」4、62、493）

役職	氏名（年齢）	扶持高	勤務
中間頭列調役	武田伴衛門（六九才）	米八石三人扶持	三六年
留列手付	市村仁衛門（四九才）	〃七〃二〃	二六〃
所務調役手代	小松崎伴介（四八才）	〃三〃二〃	二三〃
平手代	原市太夫　（五九才）	〃七〃二〃	三三〃
〃	清水嘉衛門（五三才）	〃七〃二〃	三〇〃
〃	五藤市三郎（五四才）	〃七〃二〃	二八〃
〃	井坂新三郎（三八才）	〃七〃二〃	二六〃
〃	安島政衛門（四八才）	〃七〃二〃	二三〃
〃	寺門八五郎（五九才）	〃七〃二〃	三三〃
〃	広瀬十左衛門（五三才）	〃七〃二〃	三〇〃
〃	蓮田藤介　（五四才）	〃七〃二〃	二八〃
〃	大内伝吾　（四九才）	〃七〃二〃	二六〃
〃	永山作左衛門（四八才）	〃七〃二〃	二三〃
〃	清水茂三郎（五九才）	〃五〃二〃	三三〃
〃	菊池五介　（五三才）	〃五〃二〃	三〇〃
〃	桑名宗兵衛（五四才）	〃七〃二〃	二八〃
〃	照沼伴五郎（四九才）	〃七〃二〃	二六〃
役所見習	森新五郎	二〃	

郡別（施設記号）	農村 ○制札場、△舟渡、＜林業、（）内は戸数（以下同じ）	鹿島岩城往来宿駅 □人馬駅所	棚倉街道宿駅○制札場△舟渡	岩城街道宿駅 ○制札場、△舟渡、◎陣屋、□駅所、☆市場、＜林業	漁村（一部重複） *漁獲、○制札場、□駅所、◇異国番所
多賀郡 二八ヶ村	＜大久保（250）、金沢（152）、諏訪（77）、油縄子（71）、成沢（105）、滝平新田（6）、宮田（281）、山部（88）、友部（154）、伊師本郷（78）、伊師浜（147）、石滝（20）、砂沢（27）、福平（19）、＜高原（143）			□伊師町（85）、川尻（356）、○□小木津（310）、□田尻（145）（助川と半月交代）、＜○□☆助川（310）（半月交替）、□下孫（55）、○□森山（38）（大沼と半月交替）、□大沼（66）（半月交替）	*折笠（72）、*川尻、*田尻、*○河原子（273）、*○会瀬（264）、*滑川（163）、*○◇水木（245）
久慈郡 三一ヶ村	竹瓦（58）、△留（90）、児島（41）、小目（143）、小沢（62）、岡田（67）、△幡（92）、沢目（18）、△内田（110）、落合（29）、堅磐（26）、釈迦堂（89）、上土木内（40）、下土木内（49）、茂宮（92）、石名坂（56）、南高野（38）、瀬谷（90）、大森（52）、丹奈（25）、赤須（26）、＜茅根（60）、白羽（75）、＜田渡（47）、長谷（14）、＜高貫（77）、＜亀作（143）、真弓（34）			□田中々（72）（大橋と半月交替）、○□大橋（68）（半月交替）	*○久慈（262）
那珂郡 二六ヶ村	大島（33）、外野（33）、上高場（43）、下高場（45）、高野（123）、足崎（98）、照沼（41）、長砂（83）、須和間（38）、船石川（53）、船場（30）、堤（54）、稲田（57）、杉（78）、横堀（90）、向山（44）、本米崎（168）、石神内宿（92）、△石神豊岡（105）、亀下（63）	□村松西方（東西方両村151）	○△額田（374）	○△◎石神外宿（144）、沢（94）	*○村松東方 *石神白方（83）
計八五ヶ村	六三ヶ村	一ヶ村	一ヶ村	一二ヶ村	一〇ヶ村（二ヶ村重複）

12、小検見実施状況（文化六年九月、『文化六年石神組御用留』593、599、611、652）

①小検見完了の村

立会手代	村名	合計	総計
原市太夫 清水嘉衛門 蓮田藤介 井坂新三郎 広瀬重左衛門 安島政衛門 寺門八五郎 五藤市三郎	沢目・岡田・小目・船石川・石神白方村 内田・高貫・長谷・茅根・田渡・小沢村 高原・山部・伊師浜・伊師本郷村 大沼・南高野・河原子・下孫・大久保・金沢村 田尻・川尻・折笠村 亀作・真弓・大森・手縄・瀬谷村 宮田・介川村 照沼・村松西方・村松東方・石神豊岡村	五ヶ村 六ヶ所 四ヶ村 六ヶ村 三ヶ村 五ヶ村 二ヶ村 四ヶ村	三六ヶ村

②小検見不申請の村

村名	合計
本米崎・大橋・堅磐・竹瓦・茂宮・留・児島・亀下・田中々・落合・幡・赤須・上土木内・伊師町・福平村	一五ヶ村

13、石神郡下漁獲高（『文化六年石神組御用留』66、483）

文化五年七月～十二月分		文化六年正月～六月分	
村名	漁高（貫・文）	村名	漁高（貫・文）
村松東方村	四・〇〇〇	石神白方村	六・〇〇〇
久慈村	一六八五・五〇〇	久慈村	九一四・六五〇
水木村	九四七・三四〇	水木村	一四八七・九六〇
河原子村	五九四八・五四〇	河原子村	五一〇五・四六〇
会瀬村	四九六六・〇四〇	会瀬村	五三二六・四四〇

滑川村	二五八・四〇〇	滑川村	一三二・四〇〇
田尻村	三九八・五〇〇	田尻村	四八九・二〇〇
折笠村	一六六・六〇〇	折笠村	四〇・五〇〇
川尻村	五五一六・七八〇	川尻村	二二七六・四〇〇
合計	一九八九一・七〇〇	合計	一五七七九・〇一八
前年比	ｰ三五七二・五八二	前年比	ｰ一四八四・八六四

14、石神組人馬使役集計（『文化六年石神組御用留』153）

人馬	内容区分	寛政十年～十三年分	文化元～三年分	差引き
人足	往来駅馬御用の分	五万九七一一人	八万七七〇三人	
	普請并村用その外諸御用の分	二三万〇九二七人	二三万〇三〇〇人	
	新葬并法事御用の分	一万五三九二人	五万八〇〇四人	
	合　計	三〇万六〇三〇人	三七万六〇〇七人	六万九九七七人過
馬	往来駅馬御用の分	二万三六〇九疋	三万四五二一疋	
	普請并村用その外諸御用の分	一万九七一〇疋	一万五八九八疋	
	新葬并法事御用の分	一四四五疋	四八八七疋	
	合　計	四万四七六四疋	五万五五四六疋	一万〇七八二疋過